２０２０年　７月　　後援会HP> http : //uraek.news.coocan.jp/

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。
ご意見をお聞かせください。

しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第７７号
２０２０年　７月 １７日
編集責任者　　元木計文
０４７－３５５－８５２６
部 内 資 料

－ 安倍政治と決別、命と暮らしを守る政治へ －

浅野ふみ子、衆議院千葉5区へ挑戦

こんにちは、日本共産党の浅野ふみ子です。

命と暮らしを守る政治を実現させるため、衆議院千葉5 区への挑戦を決意しました。今度こそ国会に駆け上がる決意です。

７月に入り新型コロナウイルス感染者が増加する中、不安な思いでいらっしゃる方が多いのではないでしょうか。

我が子３人が通う小学校の校長先生は、教職員がトイレの掃除と消毒に追われ、教材研究などに支障が出ているので、「教職員が疲弊しないように外部委託してほしい」と、教育委員会への要請を報告してくれました。

医療関係者も体を張って奮闘されていますが、この夏のボーナスが出ないかもしれないという医療機関もあります。電気屋、自転車屋、居酒屋なども、減収が 50%以下だから国の支援制度の対象外になってしまうと嘆いています。

いま問われているのは、「強いものだけが生き残れればよい」という弱肉強食の新自由主義の経済体制のままで良いのだろうか。医療や教育を効率優先で削るのではなく、むしろ日頃から充実させていくことこそ大事だ。こういうことが、明らかになったのではないでしょうか。

誰もが安心して暮らせる社会を実現させるために、ご一緒に声をあげましょう。

【 ６月２６日 東西線浦安駅前宣伝 】

【 ６月１４日 しんぶん赤旗日刊紙に掲載 】

読みやすい記事多い

千葉県浦安市の自営業の男性（52）は4月末、「赤旗」日曜版の購読を申し込みました。

いま「赤旗」が読みたい

国会議員の発言に共感

千葉・浦安 日曜版読者の男性

「以前から『赤旗』に興味がありました。最近の政治を見ていると、いよいよ末期的で日本社会の危機を感じます。国会その他で共産党の議員の方々の発言を見聞きし、とてもまっとうだと思い、貴紙を購読したいと思います」と述べています。

「政党の機関紙だから見方が偏った、硬い記事が多いのではないか」と予想していましたが、実際に読み始めてみると「軟らかい記事が多くて読みやすい」。演劇への思いを語り合った小泉今日子さんと渡辺えりさんの対談（5月31日号）も「オンラインでやったのが良かった」。芸能人も政治的なメッセージを積極的に発信する世の中に変わってきたのだと感じました。

「実は1年くらい前から『赤旗』を読みたいと考えていました。家族も前は抵抗があったようですが今回は『いいよ』となって」と身近な変化も。

以前から政治に関心があり、野党に投票してきました。共産党に目を向けるようになったのは、大手広告代理店の新入社員が過労自殺した事件（２０１５年）の抗議デモに参加したときです。

そこに参加していた共産党の女性議員の演説を聞き、共感しました。社会保障や過労死、消費税への態度について調べてみると、自分の考えとほとんど一致することが多かったといいます。

「新型コロナ問題での国の対応は遅いです。アメリカ言いなりに兵器を〝爆買い〟し、沖縄・辺野古に新基地を建設するのはどう考えてもおかしい。選挙では、共産党の主張にもっと耳を傾けていこうかなと考え始めています」

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ
しんぶん赤旗
日　刊●月 3497円
日曜版●月　930円

2020 国民平和大行進

今年は、コロナウィルス禍で恒例の浦安駅からの行進はありません。

東西線・浦安駅前、京葉線・新浦安駅前でスタンディングアピール・署名活動を行います。　ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキの願いを、みなさんアピールして下さい。

■日時　８月２日（日）午後４時～６時４５分

■場所

① 東西線・浦安駅前　　午後４時～４時４５分

② 京葉線・新浦安駅前　午後６時～６時４５分

『お口チャック』

村上　ますえ

「お口チャック」
もう聞き飽きた
「責任は私にあります」
何べんあなたは繰り返したことか

モリ蕎麦か
カケ蕎麦か
ひる飯の選択くらいに扱われた
あの事件以来でも
あなたは何べん
「責任は私に」と繰り返したか
サクラはみんなでサクラになって
はぐらかしてしまって

次々登場する適材適所大臣の不祥事
トバク常習の検事長
一億五千万円の買収事件
みんなあなたに責任がある
国民は知っている
「責任は私に」が空念仏だとも

「お口チャック」
いまあなたに必要なのは
「不言実行」
形ある責任をとることでは

【７月７日しんぶん赤旗日刊紙に掲載】

詩
Pippo（ぴっぽ） 選

子どもたちへのプレゼント

千葉県　村上ますえ

年度末の突然の休校
担任の先生とのお別れもできないまま
新学期も休校
新しいクラスメイト　新しい担任の先生と
運動場でちょっと会っただけ
課題は靴箱で受け取り　家庭学習
　こんなの学校じゃないや
孫はつぶやく

クラスの半分ずつの分散登校
「夏休みをなくせ　土曜授業を」
大人の論理がまかり通る

こんな中ふと耳を傾けた国会中継
「コロナの困難を乗り越えたあと
　子どもたちへのプレゼントとして
　少人数学級を」
コロナ禍にひしがれる子どもに寄り添い
展望を語れる政治家がいた

〈評〉村上さん。コロナ禍の特別な春と初夏。叫ばれる「大人の論理」。そんな中、子らの心情に寄り添える政治家の存在は、じつに救いです。

長かったような短かったような 20 年、美奈子は浦安の市議会の女性議員の草分けの一人として、努力を続けてきました。わが妻ながら、議員としての特性があるということに目を見はることもあり、活動を根気よく続けてきたことをほめてやりたいと思います。

ただ、後継を当選させ得なかったことは、本人は多くを語ろうとしませんが、本当に無念であったろうと心中を推し量っています。この地域からの日本共産党の議員を欠いたことは、本当に痛恨の極みです。

臥薪嘗胆、引き続き私たちも頑張っていくことにします。

いまもまだ、日本は安倍政権の下にあります。代わるにふさわしい人物がいないとはいえ、史上最悪の首相が続いています。内外に敵ばかり作る一方、米国のトランプへのみじめなばかりの追随、日本の文化と風土を壊し続ける政治はもう許してはおけないでしょう。市政もまたしかり、国の悪政のお先棒をかついでいます。

折しも、コロナ禍という経験したことのない不透明な時代にあります。医療を中心として、今までのマイナスの施策のしっぺ返しを受け、後手・後手が続いています。

首相は自らあけた、五つも六つも七つも八つもの大穴のドロ船の中で、いまだ憲法改悪、攻撃的自衛をあらためて呼号しています。滑稽どころの笑い話ではなく、本当に恐怖感を覚えるほどの、「イタチの最後っ屁」的な政治が行われるかもしれない危険な状況にあります。

私たちはよくよく、一つ一つのニュースとその報道具合の本質を見極める目を養って、日頃より生活していきたいものです。

猫を膝にだっこして穏やかに暮らせるような、社会的ストレスの少ない、国民本位の政治を願ってこれを書いています。

７月　元木　計文

◆◆　ごまめの歯ぎしり　◆◆

去年の夏、とうとう我が家の老猫が亡くなってしまいました。北海道生まれ、育ちの女の子、私たちのところにやってきた時は、冬毛のモコモコ、ありふれたキジトラの元気ものでした。しかし、最多時５匹いた雄たちに囲まれて遠慮気味、影の薄い存在でした。ところが、最後の雄猫がいなくなってから２年半、自己主張が盛んになり、私と妻は彼女の召使い同様、濃厚な関係にありました。充実した 26 年と４か月の猫生であったろうと感慨深いものがあります。いままだ私たちはちょっとしたペット・ロスの中にあり、自分たちの年齢からして次の新しい猫を迎え入れることも不可能、何か気の抜けた状態にあります。

妻の美奈子は昨春、浦安市議会議員を５期 20 年をもって退かせていただきました。思えば猫たちはこの間、恒に私たちとともにあったわけです。忙しい時も、穏やかな時も、暑い時も、寒い時も猫たちは用がある場合だけ私たちにすり寄ってきました。この「束縛」から免れた感じは、うまく表現できません。猫たちに感謝しながら、静かになった部屋部屋を眺めています。